

2015年度カリキュラム評価の現状と課題

—学生・教員からの評価に焦点をあてて—

蒔田 寛子	大島 弓子	山口 直己
山根 友絵	松本 尚子	永井 邦芳
廣瀬 允美	五十嵐 慎治	三輪木 君子
古賀 節子	村松 十和	榊原 千佐子
野村 浩	大瀬 恵子	西澤 和義

抄録

今回、カリキュラム評価の一つの方法として、学生・教員を対象としたアンケート調査を実施し、2015年度カリキュラムの現状と課題について検討したため報告した。

カリキュラム評価としてのアンケートの調査時期、調査内容、学生の回答をカリキュラム評価とすることが妥当であるか、などの検討が必要であった。その他、カリキュラム運用上の課題として考えられることに、講義担当者の確保、医学系科目の担当者について、実習施設の確保の課題がある。そして根本的な課題は、カリキュラム評価全体として循環プロセスが十分に機能していないことがあげられる。大学全体での授業評価、ピアレビュー、今回のようなアンケート調査を実施しても、それを循環プロセスとして機能させる仕組みがないと、効果的に十分活かすことはできない。評価したことを次に繋げ、継続的に改善していけるようなシステム作りが喫緊の課題と考えられた。

キーワード(Key Word)

カリキュラム (Curriculum)、看護カリキュラム (Nursing Curriculum)、
カリキュラム評価 (Curriculum Evaluation)

I. はじめに

大学教育の質向上を図る上で、ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)、カリキュラム・ポリシー (教育課程編成の方針)、アドミッション・ポリシー (入学者受け入れの方針) が重要であり、教育の質向上が期待されている。また、学生の学修成果の評価 (アセスメント) について、その目的、達成すべき質的水準及び具体的実施方法などについて定めたアセスメント・ポリシーが必要とされている (文部科学省, 2016)。

本学看護学科では、カリキュラム改正に向けた取り組みについて、第25回日本看護学会教育学会学術集会において交流セッションで発表、討議し、2015年度紀要に報告したが、カリキュラムの質を保証し、さらに向上させるためにはカリキュラム評価が不可欠であることを

今後の課題として述べていた(大島ら, 2016)。カリキュラム改正に向けた取り組みの過程でカリキュラムの評価, つまりアセスメントの必要を強く認識した。

大学の質評価作業は, 「質サイクル」すなわち目標と計画を定め, 実施し, その成果を分析し, 見直し, それが新しい目標と計画の策定につながるという継続的な循環プロセスを進むことが理想的といわれている。しかし, 多くの大学が学生による授業評価等を実施しているが, その本来の目的である授業改善につながっているかということについては, 疑問視されている(大学評価・学位授与機構, 2010)。本学でも大学全体で実施している学生による授業評価, FD活動としてのピアレビューの促進による教育内容の向上を目的とした授業評価等実施しているが, 循環プロセスを進み授業改善に繋がっているとはいいがたい状況がある。

カリキュラム評価は, 機関としての評価, 教員からの評価, 学生からの評価, また, いつの時期に何をどのように評価するかなど多様な観点がある(大島ら, 2016)。本学では今までこのような取り組みは実施していなかったが, 今回, カリキュラム評価について, カリキュラムの運用を主な論点として, 学生・教員を対象としたアンケート調査を実施した。カリキュラム評価として地道な取り組みを積み重ねていくことにより, 教育の質が向上し, 次回カリキュラム改正に役立つと考える。また, このような取り組みが, 本学看護学科学生にとっての到達を示すアセスメント・ポリシーを作成することに繋がる第一歩となると考える。

II. 目的

2015年度カリキュラム運用を中心にした学生・教員による, カリキュラム評価の実態を明らかにすることを目的とした。

III. 調査方法

1. 今回の調査の他にカリキュラム評価として取り組んでいる内容

今回の学生・教員を対象としたアンケート調査の他に, カリキュラム評価の方法として 1) 大学全体で実施している学生による授業評価, 2) FD活動としてのピアレビューによる授業評価がある。これらは今回の調査とも関連が深いため, その方法と内容を以下に概説する。

1) 学生による授業評価

大学の合同FD委員会を中心に, 「授業評価アンケート」を学期ごとに実施している。目的は, 学生の関心とニーズを知るとともに大学及び教員各自が授業方法の改善に取り組むことである。

- ① 対象科目: 全科目
- ② 実施科目: 対象科目のうち教員ごと1科目以上実施。担当科目のうち, アンケートに回答して欲しい科目を, 教員が選択している。
- ③ 実施方法: 学生は, スマートフォン, パソコン等から大学のインターネットであるユニ

バーサルパスポートにログインし、アンケートに匿名で回答する。

- ④ 集計結果の公開：集計項目ごとに簡易集計した結果を公開している。自由記載欄については教員のみ閲覧可能で、学生は閲覧できない。
- ⑤ 自己点検シートの作成：実施科目のうち、1科目以上自己点検シートを作成し、アンケート結果をふまえ、講義の改善点などを整理している。

2) FD活動としてのピアレビューによる授業評価

看護学科では、ピアレビューの実施に向けて、FD委員会を中心に、学習会の開催、ピアレビュー実施促進と授業参観シートの作成を行っている。

(1) ピアレビュー学習会の開催 2015年6月3日水曜日

学習会内容：

① ピアレビューに関する共通理解

ピアレビューとは何か、ピアレビューの目的と意義、ピアレビューの歴史的背景、ピアレビューの活用事例紹介等。

② グループワーク

「ピアレビューの視点」「ピアレビューの疑問点」「ピアレビューの活用方法」についてグループディスカッションを行った。

対象者：豊橋創造大学保健医療学部看護学科 専任教員 嘱託職員 非常勤職員

(2) ピアレビュー実施促進

FD委員がピアレビュー実施促進を会議、メールで呼びかけ、参観可能な講義の一覧を提示している。またピアレビューの実績について調査し、実施状況は看護学科教員間で共有している。このような教員への働きかけにより、以前よりピアレビューは実施されるようになり、授業参観シートなど授業に入った教員からのコメントを活かすことにより、教育内容の質向上に繋がっていると考えられる。

(3) 授業参観シート（ピアレビューシート）の作成

ピアレビュー学習会の講師を務めた教員が使用していた授業参観シートを、FD委員会で多少追加修正し、ピアレビューの際に利用している。観察項目は、授業技術、授業の構成と展開、カリキュラム、学生の参加度、全体の感想である。ピアレビューが内容の指摘ばかりとなり、ピアレビューを受けた教員が萎縮してしまわないように、それぞれの項目には疑問・改善点と、参考になった点を記載するようにしている。あくまでも教員相互の授業参観であり、継続できることが大切と考えている。

2. 今回の調査：学生・教員へのアンケート調査の実施

2015年度のカリキュラム運用は、看護学科1年生が「2015年度入学生カリキュラム」、2年生が「2014年度入学生カリキュラム」、3、4年生が「2012年度～2013年度入学生カリキュラム」である。つまり、3つのカリキュラムが進行している。このため、学生に対しては以

下の1)～4)の内容で調査を行った。

1) 看護学科1年生「2015年度入学生カリキュラム」のアンケート調査

(資料1 2015年度入学生アンケート用紙)

調査時期：2016年4月 ガイダンス時に実施

実施方法：集合調査，ガイダンス終了後回収

調査対象：82名 82名より回収(回収率100%) そのうち75名が公表に同意

調査内容：

- ① 授業科目について(科目数のバランス，科目の順序性など)
- ② ディプロマポリシーがどの程度身についたか

2) 看護学科2年生「2014年度入学生カリキュラム」のアンケート調査

(資料2 2014年度入学生アンケート用紙)

調査時期：2016年4月 ガイダンス時に実施

実施方法：集合調査，ガイダンス終了後回収

調査対象：88名 87名より回収(回収率98.9%) そのうち82名が公表に同意

調査内容：

- ① 授業科目について(科目数のバランス，科目の順序性など)
- ② ディプロマポリシーがどの程度身についたか

3) 看護学科3年生「2012年度～2013年度入学生カリキュラム」のアンケート調査

(資料3 2013年度入学生アンケート用紙)

調査時期：2016年4月 ガイダンス時に実施

実施方法：集合調査，ガイダンス終了後回収

調査対象：92名 83名より回収(回収率90.2%) そのうち76名が公表に同意

調査内容：

- ① 授業科目について(科目数のバランス，科目の順序性など)
- ② ディプロマポリシーがどの程度身についたか
- ③ 実習ローテーションについて

4) 看護学科4年生「2012年度～2013年度入学生カリキュラム」のアンケート調査

(資料4 2012年度入学生アンケート用紙)

調査時期：2016年2月 卒業式前に実施

実施方法：集合調査，国家試験前の全体集合日に実施し実施後回収

調査対象：94名 94名より回収(回収率100%) そのうち86名が公表に同意

調査内容：

- ① 授業科目について(科目数のバランス，科目の順序性など)

- ② 実習ローテーションについて
- ③ 卒業するにあたっての不安

5) 教員へのアンケート調査

(資料5 教員へのアンケート用紙)

調査時期：2016年4月

実施方法：インターネット環境を利用したグーグルアンケート

調査対象：専任教員29名 22名が回答（回答率75.9%）

調査内容：

- ① 授業科目について（科目数のバランス，科目の順序性，選択科目について）
- ② シラバス作成と教育内容について
- ③ ピアレビューについて

3つのカリキュラムが進行しているため，授業科目についての項目は，カリキュラムごとに回答できるようにした。

6) 集計・分析方法

各調査とも項目ごとに人数を集計した。また自由記載は，記述された内容ごとに1件とした。

7) 倫理的配慮

学生・教員を対象としたアンケートについては，カリキュラム評価として今後の教育をより良くしていくために実施している内容であるため，その旨説明した上で，任意ではあるができるだけ協力を依頼した。なお，回答は無記名である。ただし，結果公表については，自由意志による同意の有無を確認し，同意しない者については，本報告の結果から外した。

IV. 結果

1. 学生・教員へのアンケート結果

結果の公表に同意した学生・教員のアンケート結果を以下に示した。結果は，2015年度入学生カリキュラムを中心に説明する。

1) 1年次の科目数のバランスについて

1年次に配置されている科目数のバランスについてである。2012年度入学生には，4年間を通しての「科目数のバランス」について質問し，2013年度入学生には，1・2年次の「科目数のバランスについて」質問した。

2015年度入学生の結果では，約3割が「改善の余地あり」「やや改善の余地あり」と回答しており，自由記載からも「春学期と秋学期の科目数の差があった」という意見が複数あった。2015年度入学生カリキュラムは，1年次春学期の必修科目が11科目15単位，秋学期の必

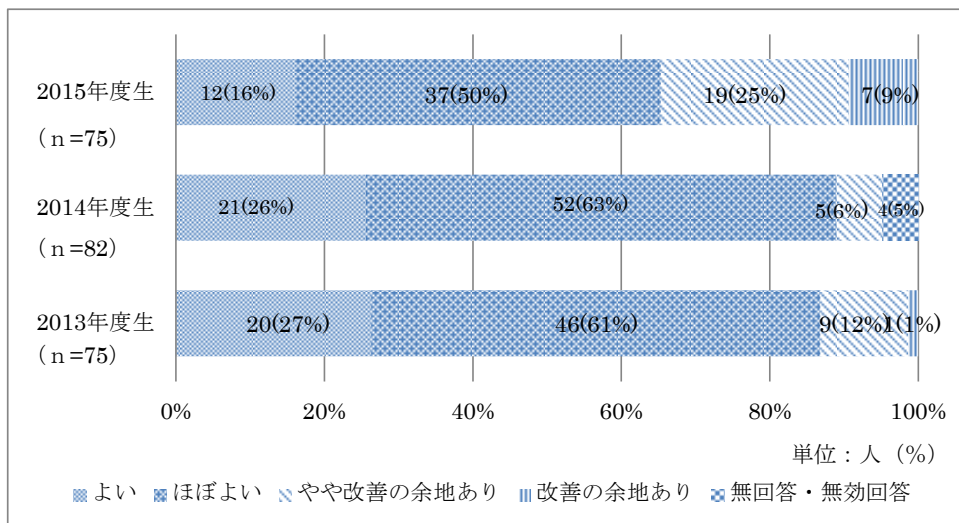


図1 1年次の科目数のバランス

表1. 1年次の科目数のバランスについて学生および教員の自由記載内容

入学年度	自由記載の内容 ()件数
2015年度生 *1年次の科目数のバランス (12件)	春と秋の授業の忙しさに差がある。 春学期と秋学期の科目数の差があったから。 春の授業数と秋の授業数があまりにも違う。 春と秋の忙しさが違い困惑してしまった。 秋学期と比べると春学期は授業数が少なかったから、いくつかずらせばちょうどよかったように思う。 春と秋をもっと均等にしたい。 春学期と秋学期のカリキュラムの忙しさが全く違った。 春学期の科目数に比べて秋学期の科目数が多いから。 必修が多いのでこれくらいだと思っ。 春と秋で偏りがあった。 家が遠いから全部1限からは少しきつかったけど、極端な空き時間はなくてよかった。 看護に重要なものばかりで良いと思ったため
2014年度生 (0件)	なし
2013年度生 *1・2年次の科目数のバランス (6件)	空きすぎる時と詰まりすぎる時の差が多い。 詰まりすぎていたように感じる。 一般教養が多すぎると思う。看護や医学に関わることを増やせると2年で楽だと思っ。 主に1〜5限授業があるため、特に問題は無い。 科目数はよい 空き時間がありすぎる曜日があった。
2012年度生 *4年間を通しての科目数のバランス (9件)	1〜2年の授業がつまっていたので、もう少し3年に移してもよいと思っ(4) 1〜2年時(特に2年の春)のカリキュラムが詰まり過ぎ(2) 1年次の授業の空き時間が多すぎると感じました。1限と4限など。家が遠かったので一度帰宅することもできず、どう時間を過ごしたらよいかとても困りました 1年次の基礎看護と2年次の疾病がつまりすぎ 1年、2年の秋学期が空きすぎていた気がした
教員 *カリキュラム全体の科目数のバランス (4件)	<2012・2013年度入学生カリキュラム> 学生の習熟度に合わせてカリキュラムが組み込まれていない科目があるため。例：1年生の間に看護技術の科目が全て終了するように組み込まれていることなど。 <2014年度入学生カリキュラム> 看護理論基礎が4年秋学期に開講になっている。1年次開講する科目ではないかと考える。 <2015年度入学生カリキュラム> 1年生の春学期は時間割に余裕があるが、秋学期は時間割にほとんど余裕がないので、春秋学期での科目数のバランスが少し悪いと感じた。1年間での科目数には問題は感じられなかった。 1年の秋学期に病態と治療Ⅰが入るのは時期が早いと思っ。1年生は、健康な身体について学ぶので精いっぱいと思っ。

修科目が15科目20単位となっており、秋学期の科目数が多いことが影響していると考えられた。教員のアンケート結果からも「春学期と秋学期の科目数のバランスが悪いと感じた」との意見があり、学生と同様であった。

2014年度入学生、2013年度入学生の結果では、9割近くの学生が「よい」「ほぼよい」と回答していた。2014年度入学生カリキュラム、2012年度～2013年度入学生カリキュラムでは、1年次の春学期と秋学期の科目数に大きな差はなかったため、このような結果になったと考えられる。また、これら以前のカリキュラムでは、2年次に疾病治療に関する科目が集中している状況があり、3年次の秋学期には多くの領域別実習が入っているため、実習が集中していて詰まりすぎとの自由記載が多かった。2015年度入学生は、1年次しか経験していない状況でアンケートを実施しているが、他の入学年度の学生は2年次、もしくは3年次、4年次まで終了した後に振り返って1年次のことを回答しているため、記憶が曖昧であること、2年次や3年次との比較で回答していることが影響している可能性が高い。つまり、2年次に比べれば、1年次は科目のバランスがよかったというように、2年次以降の状況が1年次の回答に影響していることが考えられた。

2) 1年次の科目の順序性について

次に、1年次の科目の順序性についてである。2012年度入学生には、学年ごとではなく、4年間を通しての「科目の順序性」について質問した。2013年度入学生は、1・2年次の科目の順序性について、2014年度、2015年度入学生は1年次の科目の順序性について質問し、結果を示した。

2015年度入学生は、約9割が「よい」「ほぼよい」と回答し、自由記載では「学期の進行に伴い内容が発展しているためよかった」など肯定的な意見があった。教員の自由記載でも「学生のレディネスにあった順序性である」との意見があった。

2012年度、2013年度入学生では、約2割の学生が、「やや改善の余地あり」「改善の余地あり」と回答しており、自由記載では「基礎看護学の時期が早いと感じた」との意見があり、また教員の自由記載にも、基礎看護学の順序性に疑問を感じている意見があった。

このカリキュラムでは、基礎看護学の科目は1年次で完結するよう配置されていたが、2014年度入学生カリキュラムは1・2年次に配置され、2015年度入学生カリキュラムでは、さらに整理された配置となっている。そのため、2012・2013年度入学生では、基礎看護学の科目配置について、改善を希望する結果になっていると考えられた。しかし、この学年は1年次のみ絞って科目の順序性について質問していないため、1年次のみを反映した結果と判断することはできない。

以上、2012・2013年度入学生カリキュラムのアンケート結果では、学生・教員ともに、基礎看護学の科目の順序性について疑問を感じている自由記載の意見だったが、2015年度入学生カリキュラムのアンケート結果では、学生・教員とも肯定的な意見に変化していることから、基礎看護学の科目の順序性について、カリキュラム変更の効果があったと考えられた。

しかし一方、別の自由記載では、カリキュラムの違いに関係なく、同時期に配置されてい

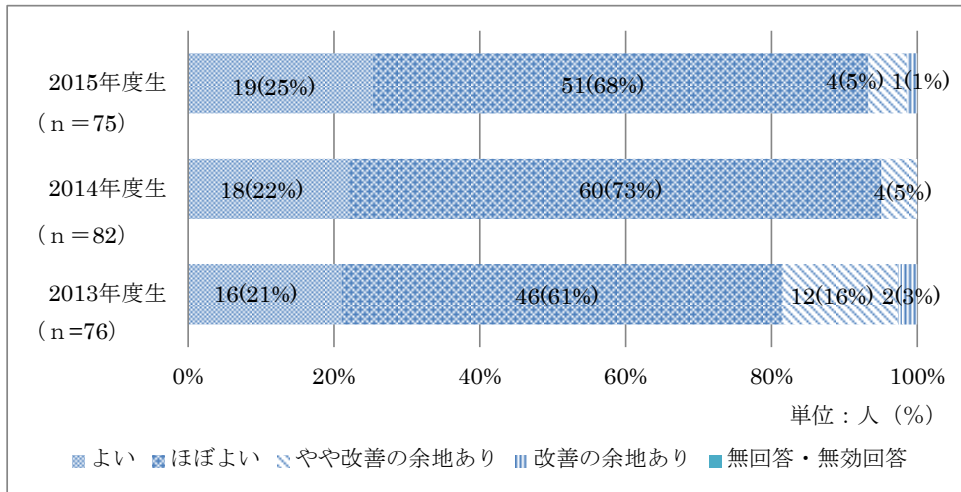


図2 1年次の科目の順序性

表2. 1年次の科目の順序性について学生および教員の自由記載内容

入学年度	自由記載内容 ()件数
2015年度生 (4件)	知識が基礎から学べてよい 基礎から学べてわかりやすかった 春学期にやった科目から発展しているから 徐々に難しい授業になっていったのでよかったと思う
2014年度生 (3件)	看護過程と専門科目の順序 解剖学の授業をやりながら疾病の授業をしていたのでわかりにくかった
2013年度生 *1・2年次の科目の順序性 (1件)	疾病の知識ゼロで基礎看護演習を終了してしまうのは、応用がきかなくてもったいない
2012年度生 *4年間を通しての科目の順序性 (10件)	1年次の何もわからない時に技術だけを教えられても3年の実習時には何も覚えていない(2) Aの科目を前提に、Bの科目を説明していたが、Aの方が曜日に遅く、Bの講義の意味が理解できないが多かったため(2) 基礎看護学の時期が早いと感じた 演習は1年のときだけでなく、学年が上がってもやってもらおう良いと思った 実習の時忘れてしまっているが、自己練習では先生がいないのでわからないことが確認できなかった 基礎から分かりやすく教われた 解剖生理学を踏まえて1~2年の授業をしてもらいたい 1年生のときにアセスメントの仕方とかをやったが、2年3年の時には忘れていたので、2年生くらいにもっと時間をかけてやってほしかった
教員 *カリキュラム全体の順序性 (8件)	<2012・2013年度入学生カリキュラム> 基礎看護技術科目が1年生春学期より開講となっているが、解剖生理学をある程度、履修してからが望ましいと考えるため。 基礎看護学は1年で完結した。2年春学期には基礎看護学が無く、9月に基礎看護学Ⅱ実習を行った。そのため、授業と実習との継続性が無く、既習の知識・技術が実習に活かした効果的な実習ができなかった。 <2014年度入学生カリキュラム> 看護理論基礎が4年次秋学期開講となっている。開講時期の検討が必要だと思われる。 看護理論基礎は1年生の開講が良いと考える。 1年次の春学期から基本看護技術と並行して生活援助技術が配置されている。科目を分けるならば、基本看護技術を履修した後に生活援助技術を配置したらどうかと思う。 <2015年度入学生カリキュラム> 1年生の秋学期科目の「ヘルスアセスメント」では、「からだと構造と機能」の学修内容が必要となるが、どちらも秋学期開講であり、同時進行しているため、このような場合は、科目間での調整が必要と感じた。 基礎看護学の科目が目的論・対象論・方法論に整理され、内容に一貫性と継続性を持ち、実習までつなげられること。 学生のレディネスに合わせて順序性を考えてあると思う。

る科目がある場合の順序性や、科目間の調整が必要との意見があり、カリキュラムを運営していく上での課題と考えられた。

3) 1年次の選択科目で学びたい科目は十分あったか

2014年度・2015年度入学生は1年次の選択科目について質問しているのに対し、2012年度・2013年度入学生は1・2年次の選択科目について質問した結果である。

2015年度入学生では、約9割の学生が、「よい」「ほぼよい」と回答し、自由記載では「看護の基礎が学べた」との肯定的な意見がある一方で、「あまり選択できなかった」との意見もあった。教員のアンケート結果でも、選択科目が少ないことがあげられていた。2012年度入学生から2014年度入学生は、1年次の選択科目は21科目であったが、2015年度入学生のカリキュラムでは、選択科目を1年次と4年次に分けて配置しているため1年次に選択できる科目は15科目となっている。このことが結果に影響していると考えられた。

2012年度～2014年度入学生でも、約9割の学生が「よい」「ほぼよい」と回答していた。自由記載では「自由に選択できた」と回答している学生がいる一方で、「取りたい科目があったが、他の授業が入っていて取れなかった」など、時間割の都合上、選択したくてもできなかったとのことであった。時間割の都合上、選択できる場合と、できない場合があることは避けなければならない。全ての学生が平等に選択できるような時間割配置は必須である。これは現カリキュラムでも起こりうることであるため、今後検討が必要である。

教員の自由記載では、選択科目の数が少ないことが、どのカリキュラムでも指摘されていた。学生は、本大学しか知らない学生が多いのだが、教員は他大学と比較し選択科目が少ないことを感じていると考えられた。

V. 考察

1. カリキュラム評価の課題

継続的な循環プロセスを進むということ

大学の質評価は、継続的な循環プロセスを進むことが理想的といわれており、質評価としてのカリキュラム評価も、その成果を分析し、見直し、それが新しい目標と計画の作成に繋がるような循環プロセスを進むようであれば意味がない。今回カリキュラム評価の1つの方法として、学生・教員を対象としたアンケート調査を実施したが、分析結果を活かしていくような継続的な取り組みが必須と考える。

大学全体で実施している学生による授業評価があり、講義終了後に、学内のネットワーク環境を活用したアンケート調査を実施しているが、これについては調査項目の修正が必要と言われており、また回答率が大変低いという課題がある。そのため循環プロセスを進むようにはなっておらず、とりあえず実施している状況である。

また、大学のFD活動として、ピアレビューの促進による教育内容の向上を目指しており、看護学科でもFD活動として、ピアレビュー学習会の開催、「授業参観シート」の作成と実施

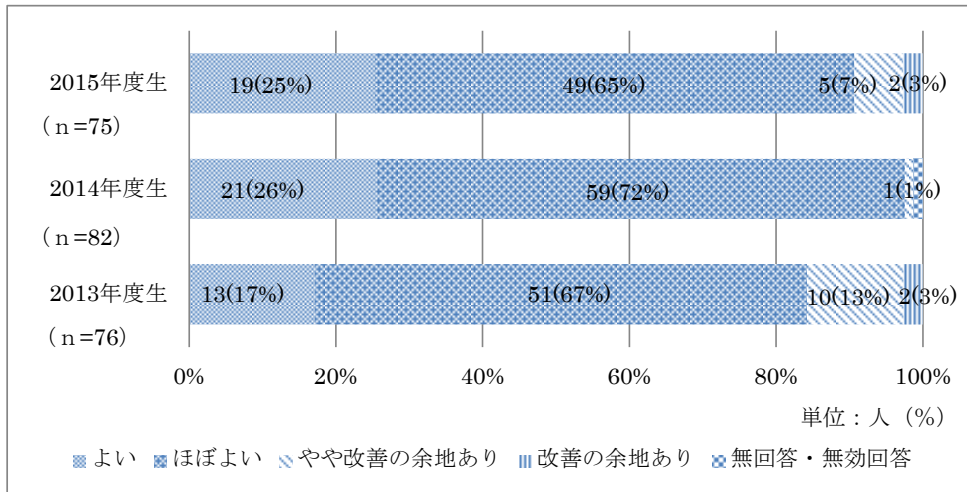


図3 1年次の選択科目

表3. 1年次の選択科目について学生および教員の自由記載内容

入学年度	自由記載内容 ()件数
2015年度生 (7件)	選択が少ない。 内容もレベルが低い。 1年のほうでもっと多くすべきだと思った。 外国語などの授業が多く、抽選制だったので思うように取れませんでした。 あまり選択がなかった。 看護の基礎を学べた。 中国語などを学べてよかった。
2014年度生 (1件)	看護のことだけではない科目を勉強するのがよかった。
2013年度生 *1・2年次の科目の順序性 (5件)	第二外国語が少ない。 他学科の授業も受けられるようにすべき。 学びたい科目が学籍番号で学べないものがあった。 履修したいけど、番号で履修出来ない授業もあった。 外国語などは興味深かった。
2012年度生 *4年間を通しての科目の順序性 (7件)	自由に選択でき楽しく学ぶことができた(2) 他の大学に比べて数が少ない気がする もっとバリエーションがあるといい 取りたい科目があったが、授業が他に入っていて取れなかった 充実していた ドイツ語や中国語が学べて良かったです。
教員 *カリキュラム全体の選択科目 (8件)	<2012・2013年度入学生カリキュラム> 教養科目にも関わらず選択科目の数が少ない。 臨床では英語を用いる場面が多く、ドイツ語はほとんど使用されていない現状がある中で、ドイツ語をI、II(4単位)として位置づける必要があるか疑問を感じる。 <2014年度入学生カリキュラム> もう少し選択の余地があったほうがいい。 科目数が少ない。 社会学概論は必修の方がよかった。 <2015年度入学生カリキュラム> 選択科目に、文系の科目は多いが、理系の科目では生物の科目しかないため、物理、化学、数学の科目もあってよいと感じた。 教養科目としては選択できる科目が少ない。 現代芸術論、東三河の歴史と風土と文化がなぜ4年なのか？1年又は2年春学期がよい。

の促進を通し、教育内容の質向上を目指している。ピアレビューは、観察者としての教員が、自分自身の授業を振り返る機会にもなるため、他教員の講義を観察の視点を持って検討することは、自分自身の講義、教育内容の質向上にも繋がっていると考えられる。しかし、現在はピアレビューを受けたことのレスポンスの体制が整っておらず、「授業参観シート」を提出して終わってしまっている。今後はピアレビューも循環プロセスを進むよう、ピアレビューを受けて修正した内容を、更にフィードバックするシステムを作るなどの具体的な取り組みが必要である。そして、この取り組みは教員個人のもので終わりとせず、看護学科全体で共有できるようなシステムを作ることが必要であり、そのような開かれたピアレビューの実施が、真に循環プロセスを進む継続的な取り組みに繋がると考える。

2. カリキュラム運用上の課題

1) アンケート調査からみたカリキュラム運用上の課題

カリキュラム評価を、アンケートによる調査で今回行ったが、この調査時期および内容の課題を先に述べる。アンケートの調査時期は、今回、年度の終わりと次年度初めに実施しているが、1年間の振り返りをすることができ、これをふまえて改善への示唆を得ることができる。しかし、時期的に次年度のシラバス作成には間に合わないため、そのような意味では次年度に活かすことはできていない。

この調査内容でカリキュラム評価ができたのか、アンケート項目の妥当性については検討できていない。また、学生からの回答を主な評価としているが、学生の回答をカリキュラム評価とすることが妥当であるかの検討も必要と考える。

次にカリキュラム運用上の課題であるが、科目の順序性があげられる。2012年度入学生カリキュラムは、学年、学期により科目が偏りすぎていること、学修内容が段階的ではなかったことなどがあり、2015年度入学生カリキュラム改正時はその点にも配慮している。日沼ら(2002)の卒業生へのアンケート調査ではカリキュラムの密度がアンバランスであることが指摘されており、また奥田ら(2008)の卒業生と教員へのアンケート調査では、授業科目の配当学年、時間数、必修科目と選択科目の配置、配分への不満が多いことが報告されている。多くの大学が同様の課題を持っていると思われる。看護学教育は、内容の過密さがあり、困難を感じている状況が他大学にもあると考える。

今回の調査では、学年によりカリキュラムの違いがあること、2015年度入学生は1年次のみの評価であるという限界はあるが、科目の順序性について否定的な回答の学生が少なく、カリキュラム改正の効果はあったと考える。

しかしながら、このアンケート調査は、カリキュラム評価を多面的に実施したものではない。カリキュラム評価は、「いつ評価するか」という時系列、「何を、または誰が評価するか」の視点からの「学習者」「教師」「カリキュラム」「環境」があるとされており(M Koyama, et, 1996: 小山ら, 2000), 全体像としての枠組みをもって評価していくことが必要である。今回は学生・教員への一時点でのアンケート調査の結果からカリキュラム評価をしたため、看護学科カリキュラムの評価の枠組みを持って実施してはいない。今後はカリキュラム

評価としての全体像の枠組みを作り実施していくことが必要である。

2) その他のカリキュラム運用上の課題

その他、カリキュラム運用上の課題として考えられることに、講義担当者の確保、医学系科目の担当者、実習施設の確保、カリキュラム改正時進級できない学生の履修の課題がある。

講義担当者の確保では毎年大変苦慮している。例えば、統合科目で「国際看護学」「災害看護学」などの科目を設けても、その内容の研究者、教育者は多くはなく、講義担当者の確保は困難である。

医学系科目については、実習施設の医師を中心に講義を依頼しているが、例えば「病態と治療Ⅱ」は2単位15回の講義を5名の医師で担当している。多い人数の講師で講義を担当する際、一貫性のある内容が担保できるかという課題がある。また成績評価をどうするかという難しさもある。本大学では、科目概要は看護学科の教員が作成し、医師に依頼する内容も科目の意図を説明しながら、相談することにより、できるだけ一貫性のある内容であることを目指している。また成績評価について、分担するボリュームをふまえて100点満点を講師ごとに内容を考慮して按分し、依頼している。

また、実習施設確保にも苦慮しており、カリキュラム運用上、実習を入れたい時期に、実習施設が確保できず、実習がまばらになることになり、学生の学修効果をふまえた大学の意向だけでは、実習時期が決められないという課題がある。また、どの大学も類似な懸案があると思われる。本学の近隣には看護専門学校等も多くあり、これも実習施設の確保に苦慮する根本的な理由となっている。

さらに、カリキュラム改正する際の学生への不利益として、旧カリキュラムで履修している進級できない学生の課題がある。今回のアンケートでは、進級できない学生の履修について確認していないが、学生の履修指導では、カリキュラムが改正されると、科目履修はどうなるのかという学生の不安は大きいと感じる。また、カリキュラム改正により、開講されなくなった科目の読み替え、単位数が変更になった場合の取扱など、非常に煩雑であり、慎重に取り組むべき内容であり、このことは、カリキュラム運用上の重要な課題と考えている。

3) カリキュラム評価全体として循環プロセスが機能していない

前述のカリキュラム評価の考察でも述べたが、根本的な課題は、カリキュラム評価全体として循環プロセスが十分に機能していないことである。大学全体での授業評価、ピアレビュー、今回のようなアンケート調査を実施しても、それを循環プロセスとして機能させる仕組みがないと、効果的に十分活かすことはできない。看護学教育機関におけるカリキュラムに関する先行研究では、カリキュラム改訂についての報告(布花原ら、2006)、カリキュラム評価としてのアンケート調査用紙の作成報告(野田ら、2005)、アンケート調査の実施報告(黒田ら、2002:愛知県立大学看護学部平成21-22年度教務委員会、2011)などがみられるが、それを循環プロセスとして次の教育に活かしていることの報告は極めて少ない。

循環プロセスは「PDCAサイクル」で説明されるが、「Plan(計画)⇒Do(実行)⇒Check(評

価) ⇒ Action (改善)」の4段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善するという考え方であり、教育現場でも使われるようになってきている(大学評価・学位授与機構, 2010)。このように評価したことを次に繋げ、継続的に改善していけるようなシステム作りは喫緊の課題である。

3. 研究の限界と今後の課題

本調査結果は、あくまで学年別データの比較であり、同一対象者の経時的変化を検証したのではなく、カリキュラムの違いもあるため結果には方法論的限界がある。

今後は上記で示した様々な課題を丁寧に克服しつつ、循環プロセスにつながるカリキュラム評価を継続し、看護学教育の質向上に努めたいと考えている。

謝辞

本調査にご協力いただきました豊橋創造大学保健医療学部看護学科の学生、及び教員の皆様に心より感謝申し上げます。なお、本内容は第26回日本看護学教育学会交流セッション「カリキュラム評価の現状と課題—学生、教員からの評価に焦点をあてて—」で発表した内容の一部に、追加修正して報告しています。

引用文献

- 大学評価・学位授与機構編著 (2010)：大学評価文化の展開—評価の戦略的活用をめざして—, ぎょうせい。
- 平成21-22年度教務委員会 (2011)：平成21年度愛知県立看護大学卒業生による質問紙を用いたカリキュラム評価調査報告, 愛知県立大学看護学部紀要, Vol.7, 41-45。
- 日沼千尋, 田中美恵子, 諏訪茂樹, 他 (2002)：本学部のカリキュラム評価—6つの教育目標の到達度に関する第1回生の自己評価を中心として—, 東京女子医科大学看護学部紀要, Vol.5, 57-65。
- 黒田裕子, 濱田悦子, 池川清子, 他 (2002)：日本赤十字看護大学における第2次カリキュラム評価に関する調査報告, 日本赤十字看護大学紀要, No.16, 45-53。
- 小山真理子, 平林優子, 南川雅子, 他 (2000)：聖路加看護大学におけるカリキュラム評価, 聖路加看護大学紀要, No.26, 123-132。
- Mariko Koyama, William L Holzemer, Chie Kaharu, et al. (1996): Assessment of Continuing Education Evaluation Framework, *The Journal of Continuing Education in Nursing*, 27(3), 115-119。
- 文部科学省 (2016)：文部科学省用語集, http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048_3.pdf (2016年11月2日)。
- 野田節子, 雄西智恵美, 石井美里, 他 (2005)：東海大学健康科学部看護学科におけるカリキュラム評価システムの構築—卒業生によるカリキュラム評価アンケートの作成—, 東海大学健康科学部紀要, Vol.11, 51-55。
- 布花原明子, 小田日出子, 伊藤直子 (2006)：看護実践能力を高めるための看護学科改訂カリキュラムの構築とその概要, Vol.10, 19-29。
- 奥田美恵, 関谷由香里, 矢野朱, 他 (2008)：第1期卒業生及び教員による愛媛県立医療技術大学カリキュラム評価, 愛媛県立医療技術大学紀要, 5(1), 75-86。
- 大島弓子, 五十嵐慎治, 古賀節子, 他 (2016)：カリキュラム改正の検討過程とその成果, 豊橋創造大学紀要, 20, 47-65。

資料1 2015年度入学生アンケート用紙

2015年度入学生の皆様
カリキュラムに関するアンケートのお願い

看護学科では、皆様のご意見を参考にしながらカリキュラムの見直しを行い、よりよい教育に反映させていただきたいと考えております。そこで、入学してからの期間を振り返って、以下のアンケートにご協力ください。なお、アンケートは無記名であり個人が特定されることはありません。また、アンケートの回答は自由意志によるものであり、個人の成績評価には一切関係しないことを申し添えます。

なお、本アンケート結果を公表する予定です。その際個人は特定されませんが、結果の公表に同意しない場合、「1」をマークしてください。

看護学科 教務委員会

以下の質問に対し、該当する番号をマークしてください。マークシートの[]には、そう考える理由や意見をお書きください。

I. 1年次の授業科目の配置について（質問1～質問9）

質問1. 授業科目の科目数のバランスについて

4. よい-----3 .ほぼよい-----2. やや改善の余地あり-----1. 改善の余地あり

質問2. 科目の順序性について

4. よい-----3 .ほぼよい-----2. やや改善の余地あり-----1. 改善の余地あり

質問3. 基礎看護学実習Ⅰの実習時期について

4. よい-----3 .ほぼよい-----2. やや改善の余地あり-----1. 改善の余地あり

質問4. 時間割について問題を感じたことはありますか

1. ある 2. ない

質問5. 選択科目で学びたい科目は十分ありましたか

4. よい-----3 .ほぼよい-----2. やや改善の余地あり-----1. 改善の余地あり

質問6. 講義について改善して欲しいことがありましたか

1. ある 2. ない

質問7. 実習について改善して欲しいことがありましたか

1. ある 2. ない

質問8. 演習について改善して欲しいことがありましたか

1. ある 2. ない

質問9. 主体的に取り組めた科目をあげ、その理由についてご自由にお書きください。

II. 看護学科では7つのディプロマポリシーを掲げています。どの程度身についたと思いますか

質問 10. 対象理解

看護の対象となる人々を、生物・心理・社会的な面から統合的に理解するための広い教養と専門的な知識・技術

4. 身についた-----3. ほぼ身についた-----2. やや身についた-----1. 身についていない

質問 11. 倫理性

看護職者として必要な倫理性を兼ね備え、人々の多様な価値観を受け入れ尊重する姿勢

4. 身についた-----3. ほぼ身についた-----2. やや身についた-----1. 身についていない

質問 12. 看護実践力

看護における顕在的・潜在的課題に対し、科学的根拠に基づく適切な判断と、解決していくための実践能力

4. 身についた-----3. ほぼ身についた-----2. やや身についた-----1. 身についていない

質問 13. 社会的貢献

変化する社会の中で看護が果たすべき社会的責務を理解し、国際的な視点を含め、広く地域の健康に貢献できる基礎的能力

4. 身についた-----3. ほぼ身についた-----2. やや身についた-----1. 身についていない

質問 14. 研究力

看護にかかわる事象を科学的に探究するための基礎的な研究能力

4. 身についた-----3. ほぼ身についた-----2. やや身についた-----1. 身についていない

質問 15. イノベーション

生涯にわたって看護を探究し、創造・革新していくための基礎的能力

4. 身についた-----3. ほぼ身についた-----2. やや身についた-----1. 身についていない

質問 16. 協調性

保健医療福祉チームの一員として、看護職者の役割を理解し、多職種間で連携・協働するための基礎的能力

4. 身についた-----3. ほぼ身についた-----2. やや身についた-----1. 身についていない

III. その他（質問 17）

質問 17. その他、ご自由にご意見をお書きください

質問は以上です。
ご協力ありがとうございました。

資料2 2014年度入学生アンケート用紙

2014年度入学生の皆様
カリキュラムに関するアンケートのお願い

看護学科では、皆様のご意見を参考にしながらカリキュラムの見直しを行い、よりよい教育に反映させていただきたいと考えております。そこで、入学してからの期間を振り返って、以下のアンケートにご協力ください。なお、アンケートは無記名であり個人が特定されることはありません。また、アンケートの回答は自由意志によるものであり、個人の成績評価には一切関係しないことを申し添えます。

なお、本アンケート結果を公表する予定です。その際個人は特定されませんが、結果の公表に同意しない場合、「1」をマークしてください。

看護学科 教務委員会

以下の質問に対して、該当する番号をマークしてください。マークシートの[]には、そう考える理由や意見をご自由にお書きください。

I. 2年次の授業科目の配置について（質問1～質問6）

質問1. 2年次の科目数のバランスについて

4. よい-----3 .ほほよい-----2. やや改善の余地あり-----1. 改善の余地あり

質問2. 2年次の科目の順序性について

4. よい-----3 .ほほよい-----2. やや改善の余地あり-----1. 改善の余地あり

質問3. 基礎看護学実習Ⅱの実習時期について

4. よい-----3 .ほほよい-----2. やや改善の余地あり-----1. 改善の余地あり

質問4. 2年次の時間割について問題を感じたことはありますか

1.ある 2.ない

質問5. 2年次の選択科目で学びたい科目は十分ありましたか

4. よい-----3 .ほほよい-----2. やや改善の余地あり-----1. 改善の余地あり

質問6. 2年次に主体的に取り組めた科目をあげ、その理由についてご自由にお書きください。

II. 1年次の授業科目の配置について（質問7～質問11）

質問7. 1年次の科目数のバランスについて

4. よい-----3 .ほほよい-----2. やや改善の余地あり-----1. 改善の余地あり

質問8. 1年次の科目の順序性について

4. よい-----3 .ほほよい-----2. やや改善の余地あり-----1. 改善の余地あり

質問9. 基礎看護学実習Ⅰの実習時期について

4. よい-----3 .ほほよい-----2. やや改善の余地あり-----1. 改善の余地あり

質問10. 1年次の時間割について問題を感じたことはありますか

1. ある 2. ない

質問11. 1年次の選択科目で学びたい科目は十分ありましたか

4. よい-----3 .ほほよい-----2. やや改善の余地あり-----1. 改善の余地あり

Ⅲ. 入学してから現在までのことについて（質問 12～質問 14）

質問 12. 講義について改善して欲しいことがありましたか

1. ある 2. ない

質問 13. 実習について改善して欲しいことがありましたか

1. ある 2. ない

質問 14. 演習について改善して欲しいことがありましたか

1. ある 2. ない

Ⅳ. 看護学科では7つのディプロマポリシーを掲げています。どの程度身についたと思いますか

質問 15. 対象理解

看護の対象となる人々を、生物・心理・社会的な面から統合的に理解するための広い教養と専門的な知識・技術

4. 身についた-----3. ほぼ身についた-----2. やや身についた-----1. 身についていない

質問 16. 倫理性

看護職者として必要な倫理性を兼ね備え、人々の多様な価値観を受け入れ尊重する姿勢

4. 身についた-----3. ほぼ身についた-----2. やや身についた-----1. 身についていない

質問 17. 看護実践力

看護における顕在的・潜在的課題に対し、科学的根拠に基づく適切な判断と、解決していくための実践能力

4. 身についた-----3. ほぼ身についた-----2. やや身についた-----1. 身についていない

質問 18. 社会的貢献

変化する社会の中で看護が果たすべき社会的責務を理解し、国際的な視点を含め、広く地域の健康に貢献できる基礎的能力

4. 身についた-----3. ほぼ身についた-----2. やや身についた-----1. 身についていない

質問 19. 研究力

看護にかかわる事象を科学的に探究するための基礎的な研究能力

4. 身についた-----3. ほぼ身についた-----2. やや身についた-----1. 身についていない

質問 20. イノベーション

生涯にわたって看護を探究し、創造・革新していくための基礎的能力

4. 身についた-----3. ほぼ身についた-----2. やや身についた-----1. 身についていない

質問 21. 協調性

保健医療福祉チームの一員として、看護職者の役割を理解し、多職種間で連携・協働できるための基礎的能力

4. 身についた-----3. ほぼ身についた-----2. やや身についた-----1. 身についていない

Ⅴ. その他（質問 22）

質問 22. その他、ご自由にご意見をお書きください

資料3 2013年度入学生アンケート用紙

2013年度入学生の皆様
カリキュラムに関するアンケートのお願い

看護学科では、皆様のご意見を参考にしながらカリキュラムの見直しを行い、よりよい教育に反映させていただきたいと考えております。そこで、入学してからの期間を振り返って、以下のアンケートにご協力ください。なお、アンケートは無記名であり個人が特定されることはありません。また、アンケートの回答は自由意志によるものであり、個人の成績評価には一切関係しないことを申し添えます。

なお、本アンケート結果を公表する予定です。その際個人は特定されませんが、結果の公表に同意しない場合、「1」をチェックしてください。

看護学科 教務委員会

以下の質問に対して、該当する番号をマークしてください。マークシートの[]には、そう考える理由や意見をご自由にお書きください。

I. 3年次の授業科目の配置について（質問1～質問5）

質問1. 3年次の科目数のバランスについて

4. よい-----3. ほぼよい-----2. やや改善の余地あり-----1. 改善の余地あり

質問2. 3年次の科目の順序性について

4. よい-----3. ほぼよい-----2. やや改善の余地あり-----1. 改善の余地あり

質問3. 3年次の時間割について問題を感じたことはあります

1. ある 2. ない

質問4. 3年次、主体的に取り組めた科目をあげ、その理由についてご自由にお書きください。

質問5. 実習ローテーションについて（空きすぎ、詰まりすぎ etc.）

4. よい-----3. ほぼよい-----2. やや改善の余地あり-----1. 改善の余地あり

II. 1・2年次の授業科目の配置について（質問6～質問13）

質問6. 1年次の科目数のバランスについて

4. よい-----3. ほぼよい-----2. やや改善の余地あり-----1. 改善の余地あり

質問7. 2年次の科目数のバランスについて

4. よい-----3. ほぼよい-----2. やや改善の余地あり-----1. 改善の余地あり

質問8. 科目の順序性について

4. よい-----3. ほぼよい-----2. やや改善の余地あり-----1. 改善の余地あり

質問9. 基礎看護学実習Ⅰの実習時期について

4. よい-----3. ほぼよい-----2. やや改善の余地あり-----1. 改善の余地あり

質問10. 基礎看護学実習Ⅱの実習時期について

4. よい-----3. ほぼよい-----2. やや改善の余地あり-----1. 改善の余地あり

質問11. 1年次の時間割について問題と感じたことはありますか

1. ある 2. ない

質問 12. 2年次の時間割について問題を感じたことはありますか

1. ある 2. ない

質問 13. 1・2年次の選択科目で学びたい科目は十分ありましたか

4. よい-----3. ほぼよい-----2. やや改善の余地あり-----1. 改善の余地あり

Ⅲ. 入学してから現在までのことについて（質問 14～質問 16）

質問 14. 講義について改善して欲しいことがありましたか

1. ある 2. ない

質問 15. 演習について改善して欲しいことがありましたか

1. ある 2. ない

質問 16. 実習について改善して欲しいことがありましたか

1. ある 2. ない

Ⅳ. 看護学科では7つのディプロマポリシーを掲げています。どの程度身についたと思いますか

質問 17. 対象理解

看護の対象となる人々を、生物・心理・社会的な面から統合的に理解するための広い教養と専門的な知識・技術

4. 身についた-----3. ほぼ身についた-----2. やや身についた-----1. 身についていない

質問 18. 倫理性

看護職者として必要な倫理性を兼ね備え、人々の多様な価値観を受け入れ尊重する姿勢

4. 身についた-----3. ほぼ身についた-----2. やや身についた-----1. 身についていない

質問 19. 看護実践力

看護における顕在的・潜在的課題に対し、科学的根拠に基づく適切な判断と、解決していくための実践能力

4. 身についた-----3. ほぼ身についた-----2. やや身についた-----1. 身についていない

質問 20. 社会的貢献

変化する社会の中で看護が果たすべき社会的責務を理解し、国際的な視点を含め、広く地域の健康に貢献できる基礎的能力

4. 身についた-----3. ほぼ身についた-----2. やや身についた-----1. 身についていない

質問 21. 研究力

看護にかかわる事象を科学的に探究するための基礎的な研究能力

4. 身についた-----3. ほぼ身についた-----2. やや身についた-----1. 身についていない

質問 22. イノベーション

生涯にわたって看護を探究し、創造・革新していくための基礎的能力

4. 身についた-----3. ほぼ身についた-----2. やや身についた-----1. 身についていない

質問 23. 協調性

保健医療福祉チームの一員として、看護職者の役割を理解し、多職種間で連携・協働できるための基礎的能力

4. 身についた-----3. ほぼ身についた-----2. やや身についた-----1. 身についていない

Ⅴ. その他（質問 24）

質問 24. その他、ご自由にご意見をお書きください。

資料4 2012年度入学生アンケート用紙

卒業時アンケートのお願い（看護学科）

豊橋創造大学 保健医療学部 看護学科は

生命の尊厳と個人の尊重を基盤とし、豊かな人間性を形成するとともに、保健医療福祉領域における看護学の役割と機能を理解し、地域社会に貢献できる専門看護職者の育成を、目標とする。

みなさんは、本学での、上記の教育目標に対しての4年間の教育課程を経て、無事に卒業要件を満たされました。4年間の振り返って、教育課程についての意見をいただき、今後の教育をよりよくしたいと考えています。

深く考えこまずに、無記名でお答えください。なお、本アンケート結果を公表することがあるかもしれません。その際個人は特定されませんが、結果の公表に同意しない場合、□にチェックを入れてください。

結果の公表に同意しません

看護学科 教務委員会

I. 以下の質問に対し、該当する番号を選んでください。[]には、そう考える理由や意見をお書きください。

1. 授業科目配置について（空きすぎ、詰まりすぎ etc.）

4.よかった-----3.ほぼよかった-----2.やや改善の余地あり-----1.改善の余地あり

[]

2. 実習ローテーションについて（空きすぎ、詰まりすぎ etc.）

4.よかった-----3.ほぼよかった-----2.やや改善の余地あり-----1.改善の余地あり

[]

3. 休暇について（夏休み・冬休み・春学休みの時期など）

4.よかった-----3.ほぼよかった-----2.やや改善の余地あり-----1.改善の余地あり

[]

4. 科目の順序性について（実習科目を含む）

4.よかった-----3.ほぼよかった-----2.やや改善の余地あり-----1.改善の余地あり

[]

5. 選択科目について

1) 基礎教育科目の選択科目（1・2年次）

4.よかった-----3.ほぼよかった-----2.やや改善の余地あり-----1.改善の余地あり

[]

2) 専門教育科目の選択科目（4年次）

4.よかった-----3.ほぼよかった-----2.やや改善の余地あり-----1.改善の余地あり

[]

6. 講義について改善して欲しいことがありましたか

1. ある 2.ない

[]

7. 実習について改善して欲しいことがありましたか
 1.ある 2.ない
 []
8. 卒業するにあたっての不安がありますか
 1) 看護技術
 4. ある-----3.ややある-----2. あまりない-----1. ない
 []
- 2) 看護の知識
 4. ある-----3.ややある-----2. あまりない-----1. ない
 []
- 3) 看護実践力（アセスメント能力を含む）
 4. ある-----3.ややある-----2. あまりない-----1. ない
 []
- 4) その他[自由記載]
9. 入学時からの4年間、意欲を持って、主体的に学習に取り組みましたか
 4. 取り組んだ 3.やや取り組んだ 2あまり取り組めなかった. 1.取り組めなかった
 []
10. 大学で学んだ4年間で、自分が成長したと思うこと、変化したと思うことはありますか
 4. ある-----3.ややある-----2. あまりない-----1. ない
 []
11. 印象に残った科目を3つあげ、どの点がどのように印象に残ったのかご自由にお書きください。
 ① 科目：
 [理由]
- ② 科目：
 [理由]
- ③ 科目：
 [理由]
- 12.その他、ご自由にご意見をお書きください

質問は以上です。
 ご協力ありがとうございました。

資料5 教員へのアンケート調査用紙

カリキュラム評価アンケートのお願い

本学科では、現在3パターンのカリキュラムで教育を行っています。教育の質保証と向上のためには、その評価が必要であり、教員に皆様にもご意見をいただきたく、アンケートを実施することになりました。3つのカリキュラムごとに回答いただく項目もあります。アンケートはGoogleアンケートで行うため個人が特定されることはありません。なお、本アンケート結果を公表する予定です。

看護学科 教務委員会

以下の質問に対し、該当する番号を選んでください。[]には、そう考える理由や意見をお書きください。

1. 授業科目の配置について

1) 科目数のバランスについて

① 春学期

4.よい-----3.ほぼよい-----2.やや改善の余地あり-----1.改善の余地あり

[]

2012・2013年度生カリキュラム 2014年度生カリキュラム 2015年度生カリキュラム

2) 科目の順序性について

4.よい-----3.ほぼよい-----2.やや改善の余地あり-----1.改善の余地あり

[*具体的な科目名をあげてください]]

2012・2013年度生カリキュラム 2014年度生カリキュラム 2015年度生カリキュラム

3) 時間割について感じたことはありますか

[]

2012・2013年度生カリキュラム 2014年度生カリキュラム 2015年度生カリキュラム

2. 実習ローテーションについて（空きすぎ、詰まりすぎ etc.）

4.よい-----3.ほぼよい-----2.やや改善の余地あり-----1.改善の余地あり

[]

2012・2013年度生カリキュラム

3. 選択科目について

1) 基礎教育科目の選択科目（選択科目はこの内容でよかったか、十分か等）

4.よい-----3.ほぼよい-----2.やや改善の余地あり-----1.改善の余地あり

[]

2012・2013年度生カリキュラム 2014年度生カリキュラム 2015年度生カリキュラム

2) 専門教育科目の選択科目（選択科目はこの内容でよかったか、十分か等）

4.よかった-----3.ほぼよい-----2.やや改善の余地あり-----1.改善の余地あり

[]

2012・2013年度生カリキュラム 2014年度生カリキュラム 2015年度生カリキュラム

4. ピアレビューについて

1) ピアレビューを受けたことは参考になりましたか。参考になった場合はどのようなことが、ならなかった場合は、どうしてか理由をお書きください。

4.参考になった-----3.まあ参考になった-----2.あまり参考にならなかった-----1.参考にらなかった

[]

2)ピアレビューをしたことは参考になりましたか。参考になった場合はどのようなことが、ならなかった場合は、どうしてか理由をお書きください。

4.参考になった-----3.まあ参考になった-----2.あまり参考にならなかった-----1.参考にならなかった

[]

3)ピアレビューはご自分の教育力向上になりましたか。

4.向上した-----3.やや向上した-----2.あまり向上しなかった-----1.向上しなかった

5. シラバス作成や教育内容について

1) シラバス作成にあたり、ディプロマポリシーを意識しましたか

4.とても意識した-----3.意識した-----2.あまり意識しなかった-----1.意識しなかった

2) 講義の計画/実施にあたり、ディプロマポリシーを意識しましたか

4.とても意識した-----3.意識した-----2.あまり意識しなかった-----1.意識しなかった

3.その他、ご自由にご意見をお書きください